

<計画>

散歩ING

第45回『散歩ING会』のご案内

両国界隈の散策と隅田川テラスを中央大橋まで散歩ING そして石川島公園でミニ花見

両国駅に集合、最初に東京都復興記念館と隣接する旧安田庭園を見学します。その後両国橋を渡って、隅田川沿いに整備された遊歩道「隅田川テラス」を歩きます。ゴールの石川島公園では園内と対岸の桜を眺めながら一献。春の散歩を楽しみましょう。

1. 開催日 4月4日(火) 雨天中止
2. 集合 JR両国駅 西口改札出口(10時)※
3. 予定



10:00 11:00 12:00 12:30 13:30

<結果>

◆参加者：22 名（敬称略）

飯村修、石川輔宏、井上金光、大滝義宣、大根田研、大橋哲雄、大庭哲哉、栗川勝俊、笹井國満、示野一雄夫妻、高谷春雄、竹田隆雄、中村彌壽家、長谷純親夫妻、浜田英生、堀永修造、村岡義章、八代真貴子（事務局）星野義明、松石雄祐

<詳細記録>

① JR 両国駅西口～横網町公園（東京都復興記念館）～旧安田庭園～両国駅西口～回向院



(1) JR 両国駅西口集合・堀永様よりコースの説明





集合場所近くの店の前に置かれた「力相撲」の石像



堀永さんによる散歩コースの説明 10:06

- 1 -

(2) いざ出発、横網町公園へ



いざ出発 10:08



江戸東京博物館近くを通過 10:10



途中見た「サトザクラ」(ヤエザクラ?) 11:14

(3) 横網町公園内散策

横網町公園

Yokoamicho Park

横網町公園 Yokoamicho Park

関東大震災(大正12年、1923年)や、東京空襲(昭和19~20年、1944~45年)による悲劇を、記憶・伝承し、その犠牲になった多くの人々を慰撫する公園です。

This park is dedicated to the remembrance of the many victims of the Great Kanto Earthquake (1923) and the Tokyo Air Raid (1944-1945), to commemorate and preserve the memory of these tragedies.

東京都慰霊堂 Tokyo Metropolitan Memorial Hall

関東大震災、および東京空襲の遭難者、16万人余の御霊を慰撫する施設です。昭和5年(1930年)に建てられました。堂内には絵画等の展示もあります。どなたでも入堂できます。

入館無料、9時~16時30分、年末年始は閉堂

Built in 1930, this hall is a memorial for more than 160,000 lives lost during the Great Kanto Earthquake and the Tokyo Air Raid. Paintings and other archives are on display in the hall, and it is open to the public.

Free admission, open 9:00 am to 4:30 pm. Closed for the New Year's holiday.

復興記念館 Great Kanto Earthquake Memorial Museum

関東大震災からの復興事業を記念するために昭和6年(1931年)に建てられました。関東大震災、東京空襲の被害や復興に関する資料を展示しています。入館無料、9時~16時30分(入館)、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)および年末年始は休館

This museum was built in 1931 to commemorate the reconstruction project following the Great Kanto Earthquake. Documents and other materials related to the damage caused by the earthquake and the Tokyo Air Raid, as well as to the ensuing reconstruction, are on display.

Free admission, open 9:00 am to 4:30 pm (entry). Closed on Mondays (if a national holiday, closed the following day) and for the New Year's holiday.

東京都立横網町公園管理所
TEL. 03-3622-1208

公園入口にある横網町公園案内看板



横網町公園南門に到着 10:19



幽冥鐘と鍾楼 10:20



「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」10:21



東京都慰霊堂 10:22



慰霊堂の内部 10:22



復興記念館へ向かう途中の銀杏並木道 10:28

【備考】東京都慰霊堂は関東大震災及び東京空襲の遭難者 16 万人余の御霊を慰撫する施設です。昭和 5 年(1930 年)に建立されました。堂内には絵画等の展示もあります。どなたでも入堂できます。(入道無料、9 時~16 時 30 分、年末年始は閉堂)



東京都復興記念館 10:29



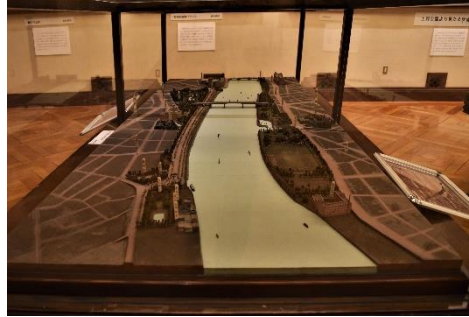
記念館 1F 展示通路 10:30



記念館 1F 展示室 10:31



記念館 2F 展示室 10:39



記念館 2F 展示室 10:41



記念館 2F 展示室鬼瓦銅板 10:41



記念館前の震災記念屋外展示場
「釘の熔塊」(江東区) 10:51



記念館横の庭に置かれた巨大な
石灯籠 10:52



東京都慰霊堂の三重の塔 10:55

【備考】
都復興記念館は
関東大震災から
の復興事業を祈
念するために、
昭和 6 年(1931
年)に建てられま
した。関東大震
災、東京空襲の
被害や復興に関
する資料を展示
しています。
入館無料、
9時～16時30分
毎週月曜日(祝
日の場合は翌日)
及び年末年始
は休館

(4) 旧安田庭園内散策



東門入口に到着 10:57

【備考】旧安田庭園は元禄年間に本庄宗資により大名庭園として築造され安静静間に隅田川の水を引いた塩田回遊庭園として整備された。明治に入り岡山藩主池田章政の邸宅となる。その後 1879 年(明治 12 年)安田財閥の祖安田善次郎が買付し本邸を建設した。という経緯がある。その後関東大震災で殆ど旧態を失ったが当時の東京市が復元を行い 1927 年に市民の庭園として開園。1967 年に東京都から墨田区に移管され現在に至っている。



遊歩道の左手にある「心字亭」(休憩所) 10:59



園内に入ると心字池を中心にした日本庭園が眼前に広がる 11:00



遊歩道の途中左手にある潮入茶屋 11:00



心字池の右手の遊歩道を進む 11:00



途中の池端に置かれた石灯籠 11:04



庭園回遊中間地点で一時休憩、景観を楽しむ 11:03



対岸の太鼓橋上にて二人だけの世界を楽しむ新婚のカップル 11:06



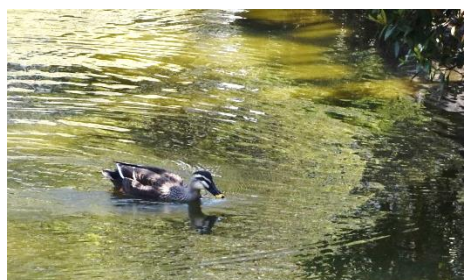
対岸を散策する井上氏と松石氏 11:06



池の西端側から眺めた東方の景観 11:09



池の中の飛び石を歩く人 11:07



カモの番い 11:09



西門の出入口に到着 11:11

(5)旧安田庭園西門～両国駅(観光案内所・両国江戸 NOREN)～(回向院)



日本相撲協会 (両国国技館) 11:14



忠臣蔵／俵星玄蕃の道場跡 11:15

宝蔵院流の槍の名手俵星玄蕃は忠臣蔵に登場する架空の人物であるがその道場は本所横綱町の此の辺にあったとされている。

(以下付録頁参照)



JR 両国駅西口 11:15



両国観光案内所・両国江戸 NOREN の中に置かれた実物大の土俵 11:17



両国駅西口から回向院へ向かう国技館通りの歩道に設置された歴代横綱の土俵入りの像
その土台部には手形が埋め込まれている 11:24～11:27

(6)回向院 (「諸宗山無縁寺回向院」、浄土宗の寺院)



回向院入口／仁王像のある正門 11:28



回向院由緒説明の立札 11:29

まこういん
回向院

明暦3年(1657年)江戸史上最悪の惨事となった明暦大火(俗にいう振袖火事)が起こり、犠牲者は10万人以上、未曾有の大惨事となりました。遺体の多くが身元不明、引取り手の無い有様でした。そこで四代將軍徳川家綱は、こうした遺体を葬るため、ここ本所両国の地に「無縁塚」を築き、その菩提を永代にわたり弔うように念仏堂が建立されました。(以下略 本記録末尾の付録頁参照)



物故力士や年寄りの霊を祀るために日本相撲協会が建立した「力塚」 11:31



回向院の本堂・寺務所 11:33



寺務所入口前の2匹の猫の像 11:33



鼠小僧次郎吉(俗名中村次良吉)之墓所 11:34
戒名:「教覚速善居士」天保2年8月18日



墓碑前の白石を削って持ち帰るとご利益があるという 11:35



鼠小僧の墓の左隣にある猫塚 11:36
「猫の恩返し」に関する由来については本記録の末尾に添付の「付録-1」を参照されたい

② 両国橋～両国 JCT～新大橋～清洲橋

(1) 両国橋を渡り隅田川右岸の川沿いの道(隅田川テラス)へ



両国 JCT 高架下を通り両国橋へ 11:40



高架下手前にある大山巖元陸軍大将揮毫の表忠碑・左は大高源吾の辞世の句碑 11:41



両国橋東側入口 11:42



両国橋上から下流側を望む 11:45



両国橋を渡り左折 11:47



ブチ広場を通り隅田川右岸へ向かう 11:47



ブチ広場から見た隅田川右岸の道 11:48



隅田川右岸の遊歩道(隅田川テラス)と美しい花壇 11:51



(モッコウバラ)



隅田川沿いの道から見た両国橋、遠くスカイツリーが見える 11:49



対岸の首都
高速 6 号線
を望む

首都高速の
6 号線と 7 号
線の両国 JCT
を望む
その下を遊覧
船が通る



(2) 両国JCT高架下から新大橋へ



両国 JCT 高架下から上流側を望む 11:56



両国 JCT 高架を下流側から望む 11:57



新大橋を上流側から望む 11:59



途中浜町公園付近で一時休憩 12:01



対岸の大ビルの間に見えたスカイツリー12:02

(3) 新大橋



新大橋を下流側から望む 12:11

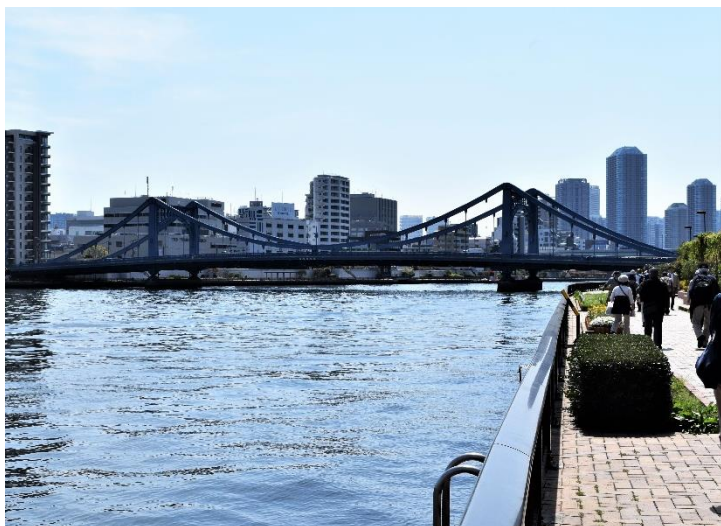


清州橋へ向かう途中通路の洒落た壁のモザイクアートタイル 12.13

花壇一面黄色の植物
(サワラ?) 12.14



(4) 清州橋



清州橋を上流側から望む 12:14



下流側から眺めた清州橋 12:23

③ 首都高速9号線・隅田川大橋～豊海橋～永代橋～中央大橋～石川島公園



(1) 首都高速9号線・隅田川大橋～豊海橋～永代橋



上流側から首都高速9号線・隅田川大橋大橋 12:23



隅田川大橋高架橋下から永代橋を望む 12:25



上の道から上流の首都高速9号線と隅田川大橋を望む 12:29



永代橋手前で上の道に上る 12:29



階段を上った所に「永代橋の歴史記述案内表示板」がある。
(註) 詳細はこの記録最終頁に添付の付録頁参照



豊海橋を渡る 12:30 (1927年に震災復興橋として隅田川に流入する日本橋川に架設された)

永代橋から西方の広い車道を横断する 11:33 ⇒



永代橋を西端から眺める 12:32



(2) 永代橋～中央大橋～石川島公園～昼食懇親会～解散



永代橋の下流右岸の桜並木道で満開の桜を楽しむ 12:35



永代橋を桜の花越しに眺める 12:35



隅田川右岸の道を進む／手前はベニカナメモチ？の垣根 12:37



上段の道から振り返って永代橋を遠望する 12:39



中央大橋へ向かう途中上段の道から石川島公演方面を望む 12:39



途中の新川公園から中央大橋を望む 12:42



隅田川テラス「新川公園」の標柱 12:44



隅田川テラスから中央大橋への登り口 12:45



中央大橋を西側の入口から渡る 12:45



メッセンジャー像の後ろ姿 12:47

メッセンジャー像

(仏)パリ市長ジャック・シラクから
友好の印として贈られた像
(オシップ・ザッキン 1937 年作)
パリからやって来た使者により中
央大橋から墨田川の上流に向
けて発せられるメッセージを東
京の歴史ある永代橋がお迎えし
受取るという構図。永代橋は隅
田川を見守り続け江戸・東京の
隅田川の門として長く君臨して
きたお迎えの役としては一番適
役の橋。メッセンジャー像が隅
田川の下流ではなく上流を向い
ているのはそういった所に理由
があるのかもしれない。



中央大橋上から上流の永代橋と東京スカイツリーを眺望する 12:47



中央大橋の中間付近から見た東方の景観 12:50



左写真と同じ地点から永代橋方面を望む／タグボートが潮上中 12:50



石川島公園の標石 12:51



公園から眺めた中央大橋 12:52



お世話下さったスタッフ：(井上氏提供写真)

OB 会歴代事務局長：浜田氏・堀永氏・星野氏
及び現次長：松石氏、特別世話役：井上氏



現事務局長星野氏の挨拶と乾杯の音頭で昼食・懇親会スタート (井上氏撮影)

【後記】

第 45 回 OB 会「散歩 ING 会」は事務局含
めて計 22 名の参加により無事予定通り開催
されました。素晴らしい好天に恵まれ、かつ事務
局並びにお世話下さったスタッフの皆さんの
お陰で快適に楽しい一日を過ごすことが出来
ましたことに厚く感謝申し上げます。

また、井上さんには早速記録レポートを作成
下さり有難うございました。参加者主体の写真
記録でしたので参加者皆さんの良き思い出に
なると思います。

小生にとって今回のコースを歩いたのは初
めてで風景・風物主体の写真しか撮っていま
せんでしたので、それを主体に記録として纏め
てみました。拙劣ですがご覧いただければ幸甚
です。なお、勝手ながら最後の 2 枚の写真は井
上さんの写真を借用させて頂きました。

(村岡 記)



忠臣蔵／依星玄蕃の道場跡

宝蔵院流の槍の名手、依星玄蕃は忠臣蔵に登場する架空の人物で、彼の道場は、本所横網町のこの辺りにあったとされています。

上杉の家老・千坂兵部が二百五十石の高禄で、吉良家に召抱えようとしませんが、赤穂浪士の世を忍ぶ苦心に同情を寄せた玄蕃はこれを断りました。

屋台の夜なき蕎麦屋「当たり屋十助」に姿を変えて吉良邸を探っていた赤穂浪士・杉野十兵次の前で、「のうそば屋、お前には用のないことじゃが、まさかの時に役に立つかも知れぬぞ見ておくがよい」と、槍の技を披露しました。

討入り当夜、助太刀に駆けつけると、杉野に会い、たいへん驚き、吉良邸外の守りを固め、本懐成就に協力したとされます。



江戸の町／回向院

明暦三年（1657）、江戸史上最悪の惨事となった明暦大火（俗に振袖火事）が起こり、犠牲者は十万人以上、未曾有の大惨事となりました。遺体の多くが身元不明、引取り手の無い有様でした。そこで四代将軍徳川家綱は、こうした遺体を葬るため、ここ本所両国の地に「無縁塚」を築き、その菩提を永代にわたり弔うように念仏堂が建立されました。

有縁・無縁、人・動物に関わらず、生あるすべてのものへの仏の慈悲を説くという理念のもと、「諸宗山無縁寺回向院」と名付けられ、後に安政大地震、関東大震災、東京大空襲など様々な天災地変・人災による被災者、海難事故による溺死者、諸動物など、ありとあらゆる生命が埋葬供養されています。

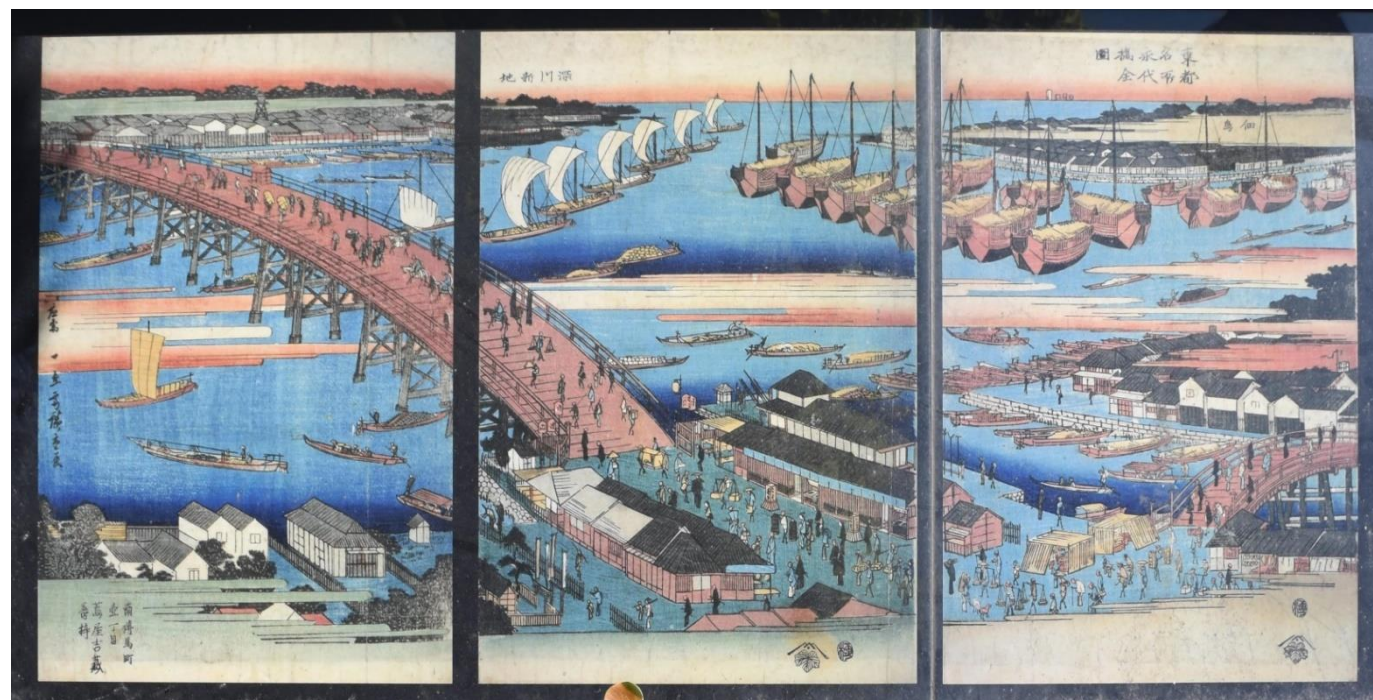


両国物語／猫の恩返し（猫塚）

猫をたいへんかわいがっていた魚屋が、病気で商売ができなくなり、生活が困窮してしまいます。すると猫が、どこからともなく二両のお金をくわえてき、魚屋を助けます。

ある日、猫は姿を消し戻ってきません。ある商家で、二両くわえて逃げようとしたところを見つかり、奉公人に殴り殺されたのです。それを知った魚屋は、商家の主人に事情を話したところ、主人も猫の恩に感銘を受け、魚屋とともにその遺体を回向院に葬りました。

江戸時代のいくつかの本に紹介されている話ですが、本によって人名や地名の設定が違ってきます。江戸っ子の間に広まった昔ばなしですが、実在した猫の墓として貴重な文化財の一つに挙げられます。



永 代 橋

元禄 11 年（1698）に架橋された木造の永代橋は、現在の永代橋の場所よりも約 150m 上流のこの付近に架けられていました。橋名の由来は、当時このあたりが永代島と呼ばれていたことから名付けられたようですが、一説には五代將軍綱吉の 50 歳を迎えた記念として名を付けられたとも伝えられています。江戸時代には橋桁が高く取られたこともあり、橋上からは「西に富士、北に筑波、南に箱根、東に安房上総、限りなく見え渡り眺望よし、などといわれるほどの美しい景色が広がっていました。

歌川広重が江戸後期に描いた「東都名所永代橋全図」には、隅田川河口のこの辺りに多数の廻船が停泊している様子が見えます。また、永代橋西詰のにぎわいととも、幟が立つ高尾稲荷社へ参詣する人びとの姿などもみられ、詩情豊かな情景が描かれています。

なお、永代橋が現在の場所に移されたのは明治 30 年（1897）のことで、道路橋としては初めてとなる鋼鉄橋に生まれかわりました。その後、関東大震災で被災したため、大正 15 年（1926）に現在の橋へと架け替えられました。上流に架かる清洲橋の女性的で優美な雰囲気とは対照的に、男性的で重厚感あふれる永代橋は、隅田川の流れとともに広く都民に親しまれています。